人間の成長とは……?

インテグラル理論の見地から

On the multifaceted nature of human development through Integral perspective

鈴木 規夫

Integral Japan

PresentationPoint

多様なことば

- 成長（development）
- 成熟（maturation）
- 進化（evolution）
- 創発（emerge）
- 深化（deepening）
- 変化（change）
- 変容（transformation）
- 超越（transcendence）
- 転換（translation）
- 治癒（healing）
- 蘇生（rejuvenation）
- 再生（re-birth）
- 上達（advancement）
- 進歩（progress）
- 覚醒（enlightenment）
- 洞察（awareness・insight）
- 突破（break-though）
- etc.

PresentationPoint

問題

- 多様なことばが存在するが、状況や発言者や業界に応じて、同じことばでも、その意味するところが大きく異なるということ。

→表面的にことばを共有していても、対話が成立しない。

- 多様な定義が存在するが、基本的には、そのどれもが人間の真実をとらえているということ。

→「正しい意見」と「誤った意見」があるのではなく、全てが正当性のある意見である（ただし、ひとつの意見では、人間の全てを説明することはできない）。

PresentationPoint

解決策

統合的な枠組の確立

複数の真実が相補的に共存することのできるように、全体の中における、それぞれの真実の位置や役割をあきらかにするメタシステムの確立。

「……全てのアプローチは、本質的には、真実ではあるが、部分的なのである……」

ケン・ウィルバー

PresentationPoint

人間の多面性と重層性

インテグラル理論によれば、人間は非常に多面的・重層的な存在であるといわれます。また、その一生をとおして、人間は、異なる種類の課題や試練と直面し、異なる種類の成長を遂げていくことになるといわれます。

例えば：

- 人格の深層的な変容（capacity）
- 機能的な能力の習得や向上（competency）
- 思想や知識等の習得や刷新（contents）
- あらたな意識状態（非日常的意識状態）の開拓（states）

PresentationPoint

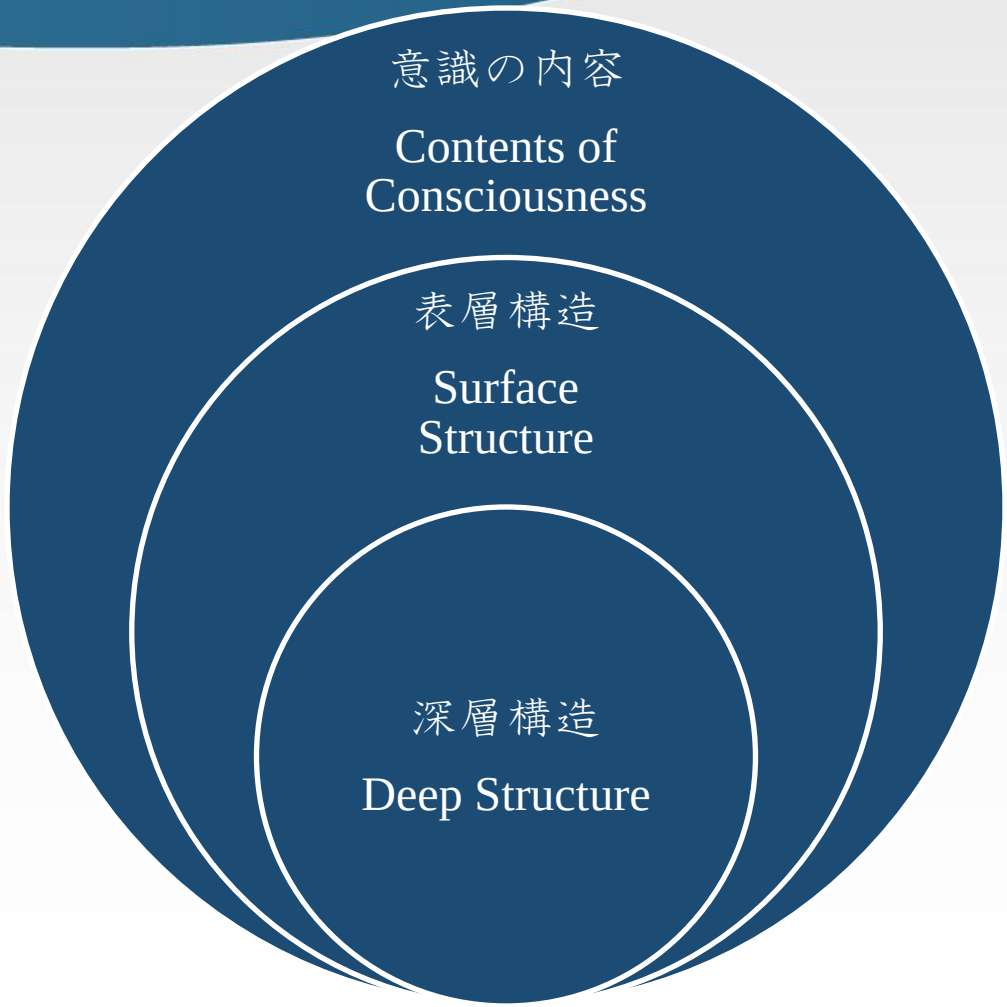
留意事項

- これらの全てが重要であるということ
- これらの全てが相補的な関係にあるということ
- 課題や時期や状況に応じて、必要とされる――強調されるべき――成長や訓練や支援の種類が異なるということ

人間の成長を効果的に支援するためには、被支援者の状況を統合的に把握したうえで、必要とされる統合的な実践法を考案する必要があります。

PresentationPoint

人格の構造



PresentationPoint

構造と状態の関係

意識構造	意識状態 Gross	意識状態 Subtle	意識状態 Causal
後・慣習的 世界中心的 **Post Conventional**	←	—	→
慣習的 社会中心的 **Conventional**	←	—	→
前・慣習的 自己中心的 **Pre Conventional**	←	—	→

PresentationPoint

構造と状態の関係

意識構造	特徴
後期Vision Logic	同時代の本質的課題を洞察して、それがつきつける高次の要求や責任に自己を捧げる。また、光と闇や陰と陽をはじめとする存在の対極的な要素を抱擁・統合する→戦略主義者（Strategist）
前期Vision Logic	唯一無二の存在としての、みずからの潜在的可能性（使命・天命）を探求・開発して――社会に寄与できるように――個性的に生きる→自己実現主義者（Individualist）
合理性	みずからの資質や能力をフルに開発・発揮して、社会の中で個性的・創造的に活躍していくことを善とする→達成主義者（Achiever）
神話的合理性	みずからの所属する社会の規範や価値観や規則を絶対化して、それらが許容する思考や行動をする。→体制順応主義者（Conformist）

意識状態の特質

人間は多様な意識状態を経験しながら生きています。異なる意識状態は、われわれに異なる感性や発見をもたらしてくれます（あるいは、高機能状態をもたらしてくれます）。それらは、日常の制約を離れて、世界を異なる視点や枠組をとおして経験することを可能としてくれるのです。

ただし、意識状態は、本質的には、一時的なものです。それは、数時間～数日間つづいたあと、沈静化していきます。また、そのときに経験された状態や洞察は、ときとして、日常的な意識の枠組では完全に咀嚼・統合できないものであるために、それらはしばしば歪曲化・矮小化されて統合（記憶）されることになります。

PresentationPoint

意識状態の特質

人間の成長を真に支援するためには、意識状態を統合するための訓練に継続的にとりくむことが重要となります。そうした訓練を怠るとき、非日常的な意識状態を経験することが自己目的化することになります（高揚体験にたいする依存）。

エイブラハム・マズローは、こうしたプロセスを、「至高体験」（peak-experience）を「高原体験」（plateau experience）として定着させるプロセスとして説明しました。つまり、そこでは、「非日常的な体験」が「日常的な体験」として安定化するのです（尚、そのときには、最初の段階で経験されていた劇的な高揚感は経験されなくなります）。

ただし、非日常的な意識状態は、ときとして、膨大な心的エネルギーを流入させることをとおして、個人の人格構造を大きく動揺させることになります。結果として、それは、人格障害や現実乖離をひきおこすこともあります（Spiritual Emergency）。

PresentationPoint

構造と状態の関係

必然的に、個人が真に効果的に成長を実現していくためには、さまざまな意識状態で経験される洞察や発見を適切に咀嚼・統合するための統合能力の鍛錬が重要となります。即ち、そうした統合機能の基盤である意識構造（「自我」）の鍛錬が重要となるのです。

Ego = the integrative function of the psyche - Howard Gardner

意識構造が成熟することで、人間は自己中心性を減少させ、みずからにもたらされた非日常的な体験を――「わたし」のために利用するのではなく――「わたし」を超えたものに貢献するために統合することができるようになります。

PresentationPoint

意識構造の成長

- 意識構造の変容は、自己対象化のプロセスと形容されます。それは「わたし」をみつめる、もうひとり「わたし」を確立するプロセスです
- 意識構造の変容は、しばしば、「死と再生」のプロセスと形容されます
- 意識構造の変容は、少なくても5年の時間を必要とするプロセスです
- 意識構造の変容は、適切な支援と試練を必要とするプロセスです
- 意識構造の変容は、基本的には、已むに已まれずに起こるプロセスです
- 意識構造の変容は、「わたしが問題を解決するのではなく、問題がわたしを解決する」という窮極的な状況に追い込まれたときに起こります
- 意識構造の変容は、世界の複雑性と不確実性をあきらかにすることをとおして、心理的な負担や重圧を深めることになります（成長は幸福を保証しません）

PresentationPoint

倫理的実践

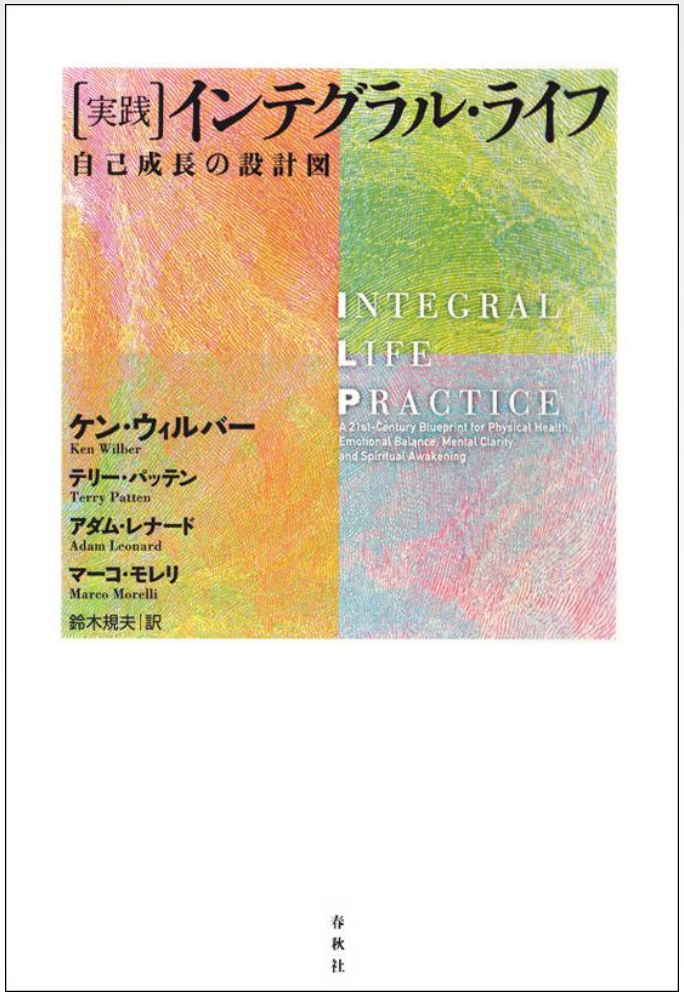
インテグラル理論においては、成長とは、刻々と変化する世界の中で倫理的な責務を果たすために必要とされるものだと位置づけられます。それは、窮極的には、「わたし」のためのものではなく、「わたし」を超えていくために必要とされるものなのです。

必然的に、統合的な枠組においては、成長を実現するためには、倫理的な鍛錬が必須となります。非日常的な意識状態や高次の意識構造は、こうした訓練なしには、容易に自己中心的に活用されてしまえるのです（例：非日常的な意識状態の中で発揮される高度の創造性は、犯罪的な行為を発案するために利用できる）。むしろ、高度の発達段階は、まさにその高度の能力ゆえに、破壊的にも利用されえるのです。

その意味では、統合的な成長のとりくみにおいては、成長をどう意義づけるのかということが非常に重要となります。

PresentationPoint

Integral Life Practice



PresentationPoint